

ジャポニスム学会国際シンポジウム 2022「グラフィック・デザインとジャポニスム：19-20世紀」

ジャポニスム学会 > 活動 > ジャポニスム学会国際シンポジウム 2022「グラフィック・デザインとジャポニスム：19-20世紀」

日程：2022年11月12日（土）10：00～17：25

Zoomミーティングによるオンライン開催

主催：ジャポニスム学会／公益財団法人 荏原 畠山記念文化財団

使用言語：日本語、英語（遠隔同時通訳付き）

定員：150名

参加費：無料

趣旨

日本のグラフィック・デザインの重要性は、これまで浮世絵版画や工芸の「図案」との関連で論じられてきた。しかし、近代の一世紀以上に亘り多様な形態をとった主要な視覚言語としての役割はあまり論じられてはいない。日本のグラフィックといえば、江戸期の浮世絵版画と絵手本の類を源とするが、明治期に入ってから、より商業的な媒体として発展し、「図案帖」や「見本帖」、あるいはポスターや商品パッケージなどのかたちで国際的なマーケットの増大する受容に応じてきた。さらにその後は、戦時におけるプロパガンダ・イメージにおいても発展するとともに、戦後も映画や演劇、音楽などの社会的かつ文化的活動のポスターやブックレットなどの分野でも重要な役割を果たしている。今日では、日本のグラフィック・デザインは、西洋の美学に最も強力な影響を及ぼした視覚言語のひとつとなっている。

20世紀の西洋の映画や音楽、演劇のポスターは、日本のグラフィック・デザインとタイポグラフィーに注目してきた。日本が欧米のポスターに目を向けたのとは対照的である。今日でも日本特有の「空白」と単純性の嗜好は非常にエレガントな表現として、欧米で新たに注目されている多様なジャンルやメディアの創造活動に影響を及ぼし続けている。

このシンポジウムでは、グラフィック・デザインをめぐる日本と欧米の文化間交流と相互の影響関係を全体テーマとし、19世紀の「図案」から、工芸作品やテキスタイルなどの応用芸術を経て、現代のグラフィック・デザインまで、幅広く相互の交流状況を具体的に検討したい。

プログラム

10:00 開会 藤原貞朗（総合司会、ジャポニスム学会理事）

10:00 - 10:10 ご挨拶 宮崎克己 ジャポニスム学会会長

松井昭憲 公益財団法人荏原畠山記念文化財団理事

10:15 - 10:45 趣旨説明 ロッセッラ・メネガッツォ（テーマ提案者、ミラノ大学准教授）

第1セッション「図案帖の出版・収集・展覧会」①

司会：田中厚子（ジャポニスム学会理事）

10:50 - 11:20 早光照子（版元芸艸堂）

基調報告「芸艸堂、明治創業の出版社の歴史」

11:25 - 11:55 大平奈緒子（渋谷区立松濤美術館学芸員）

基調報告「津田青楓の図案表現：『津田青楓 図案と、時代と、』展開催報告」

12:00 - 13:00 昼休憩

第1セッション「図案帖の出版・収集・展覧会」②

司会：田中厚子

13:05 – 13:35 エレオノラ・ランツァ（ミラノ大学博士課程）

研究発表「北イタリアにおける日本の図案の流通と収集：ヴァレーゼ市立図書館コレクションのケーススタディ」

13:40 – 14:10 ケヴィン・グラフ・シューマツハ（ミュンヘン大学〔LMU〕博士課程）

研究発表「ジャポニスムの還流？：明治大正期の日本におけるグラフィック・デザイン、模様、モチーフ、装丁」

第2セッション「図案と応用芸術：輸出と再解釈」

司会：石井元章（ジャポニスム学会監事）

14:15 – 14:45 竹内有子（京都先端科学大学講師）

研究発表「色彩印刷を通じた日英交流：クリストファー・ドレッサーの『デザイン研究』」

14:50 – 15:20 サスキア・トゥーレン（文化学園大学助教）

研究発表「ストーリーテリングを通じた着物再評価：銀座もとの着物コレクションに見えるグラフィック・デザインのケーススタディ」

15:20 – 15:30 小休憩

第3セッション「ヨーロッパのポスターにおける日本のグラフィックの影響」

司会：石井元章

15:35 – 16:05 レジャーヌ・バルジエル（フランス国立装飾美術館名誉学芸員）

研究報告「19-20世紀のフランスのポスターにおける日本の図像の再解釈」

16:10 – 16:40 ロッセッラ・メネガッツォ（ミラノ大学准教授）

研究発表「19-20世紀のイタリアのポスターにおける日本の図像の再解釈」

まとめと講評

16:45 – 17:15 稲賀繁美（京都精華大学教授）

17:20 閉会挨拶 人見伸子（ジャポニスム学会理事長）

17:25 閉会